３ 園評価書（指標）　　令和5年度　　園評価書

園番号　5　　園名 井川こども園

Ⅰ　経営の重点に関わること

評価段階（A：よくできている　B：概ねできている、C：あまりできていない、D：できていない）

1　教育・保育目標	2　重点目標	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員会から	改善策（来年度の具体的な取組目標等）
心豊かに たくましく伸びる いかわっこ	考えたり・試したり　じっくりやってみよう！	好きな遊びを繰り返し試せる環境作り	今年度のテーマである「段ボール製作」を存分に楽しむため、様々な素材や道具を準備し環境を整えたことで、その時々にあった環境を再構成しながら繰り返し楽しむ姿が見られた。２階のホール全面を使って遊びの空間にしたことも、ダイナミックな遊びへと発展していった要因となった。	A	A	・園の環境を最大限に生かし、その中で子ども達の創意あふれた遊びが進められている。何より、子どもの思いを何とか実現させてあげようとする、保育者の熱意と行動力に頭が下がる。 ・人的に補えないところは、物的に補うなど、育てたいことに視点を向けて、この園でしかできないことを進めてほしい。 ・製作した完成品を見てもそれまでの経過が充実しているように思った。少人数に段ボールという教材を活かした保育だったと思う。 ・一定の制約の中でも、子どもたちの個性を伸ばす取り組みであったと思う。	・来年度も子どもと保育者が一緒に物つくりを楽しんで行く。 ・遊びの主導権は子ども（子ども主体）であり、保育者が形になるように繋げていく。 ・来年度が人的環境が不足することは避けられない。 地域を巻き込み、小学生との交流を増やし刺激を受けながら遊びを広げていく。（小中学校と密に計画を立てていく） ・自然物の栽培、飼育を通して、愛情をかけて世話をすることで、命の大切さや成長の喜びを感じられるようにする。
		友だちや保育教諭と一緒に遊ぶ中で自分の考えを伝えあいながら、遊びが発展できる関係作り	子どもの発達に応じて、保育者が代弁したり仲介したりする中で、それぞれの思いや考えを伝え合う時間を持ち、遊びがより楽しくなるように保育を進めてきた。一人ではできないことも力を合わせることで完成でき,達成感を得ることが出来た。	A	A		
		井川の自然を知り探索する中で、四季に応じた遊びを行い、いろいろな体験ができる	過ごしやすい季節に、週１回は散歩に出かけ井川の自然物を集めたり、虫を捕まえ飼育したりすることを楽しんできた。集めた自然物を使って遊びに取り入れてきた。主活動が盛り上がると自然散策の時間は少なくなった。	A	A		

Ⅱ　各領域に関わること

大項目	中項目	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員会から	改善策（来年度の具体的な取組目標等）
1 こども園における教育及び保育	(1)0歳から小学校就学前までの一貫した教育及び保育	各年齢の発達や就学までに育ってほしい姿を理解し、年齢にふさわしい経験ができるように適切な援助を行っている	・子ども達の発達や特性を理解し、職員や保護者、専門機関と共有してきた。その上で、子どもたちに経験させたいことを明確にし、保育を進め援助をしてきた。 ・異年齢混合保育のため、片方の学年に寄ってしまうことあったので、発達に応じた環境設定を行いそれぞれに合った取り組みを行った。	A	A	・こども園にいつ行っても、温かく先生や子ども達が迎えてくれる雰囲気はとてもいいと思った。 ・少人数だからやりやすい面と、やりにくい面があると思うが、現時点では少人数故の良さが活かされているように見えた。 ・子ども任せにするのではなく、保育者も深く関わる中でより良い遊びが展開できていると思う。 ・園としての基準を分かりやすく設定し家庭と目的理解を共有してほしい。 ・外部人材を活用し、子ども達によりリアルな状況を用意することで、得ることも多かったのではないか。また、日頃から事故防止に向けた、取り組みをしていて良いと思った。 ・個の実態を明確にし、どう育てたいか具体的に考え実践し、個を取り巻く環境（家庭）をもっと巻き込んで進めてほしい。 ・家庭との連携を取り、保護者も不安に思っているかもしれない。寄り添ってケアしてほしい。 ・職員でチームワークを活かし特別支援児の研修を深めてください。 ・人とのやり取りの場を多くし、場数を踏む中で会話へとつながることが望ましい。 ・小規模園ならではの苦しい状況があると思う。できて当たり前と思わずに、できることを優先し、欲張らないで地道に進めて行けばよいと思う。 ・異年齢・月齢・興味の違いなどを理解し、対応していくことが大切。そのために、一人ひとりの実態把握が欠かせない。 ・子どもの把握を日々心掛けている成果が表れていると思う。遊びを通して、子ども達は確実に成長しており、評価に値する。 ・井川において、園と学校の連携は必要であり、今後も続けていきたい。特に今年度は、お互いに研修に参加できたことが多かった。 ・地域の方にとっても、交流が多くあることで園に足が向き、子ども達の様子を見てもらえ良かったと思う。学校としもこうした園の取り組みを見習っていきたい。 ・これからもいろいろな人を園に招き活用してほしい。新年度は、人的環境の充実だと思います。応援しています。情報発信を大切に。	・小学生との交流を多く計画する中で、自分の思いがいつでも通るのではなく、いろいろな人の思いや意見があることを知らせるために、こども同士の話し合いの場を設けられるようにしていく。（小中学校の協力のもと） ・今年度行ってきた少人数だからこそできる、個を大切にし、子ども主体で遊びを進めていくことを続けていく。（保育者の願いを元に） ・様々な想定を元に、リアルな状況の中で訓練が行えるように、地域の交番・交通安全員の方々に協力をいただき実施していく。
	(2)一日の生活の連続性及びリズムの多様性への配慮	園児一人一人が安心して過ごせるように園生活の流れを作っている	・生活の流れや朝の活動を一定にすることで、見通しが持てるようにした。また、振り返りの時間に、今日の遊びを振り返り明日の予定を明確にすることで安心して過ごせていた。	A	A		
	(3)環境を通して行う教育及び保育	子ども一人ひとりの思いを大切にしながら、十分に遊び、繰り返し楽しめる時間と場所を確保している	・子どもが思い切り遊べるように、時間や場所を確保し遊びを楽しんできた。また、保育者の願いと子どもの思いが一致するように保育を進めてきた。 ・子どもの考えを受け止め、子どもと話し合う場を大切にした。子どもがやってみたいというを思いを繋げ、繰り返し楽しめる保育を考えてきた。	A	A		
2 安全管理・指導	(1)事故防止・防災	避難訓練、不審者侵入訓練、交通安全指導を年間計画に沿って実施し、訓練の反省やヒヤリハットを通して事故防止につなげていく	・避難訓練では、子どもの様子を確認したうえで、できたことを認め、反省点をその場で子どもたちに伝えることができた ・様々な想定で避難訓練や不審者侵入訓練を定期的に行った。子どもは様々な状況に合わせて身を守る術を覚え、保育者は反省点から対応の改善点を見つけ次に活かすことが出来た。 ・ヒヤリハット事例を定期的にとったが、気づいたときにメモをとる習慣をつけていきたい	B	A		・こども園として、感染症などのガイドラインが決められており、保護者へ伝えてあるから（手紙など）ではなく、その都度ガイドラインの説明を丁寧に行い、基準を守ってもらえるようにしていく。
3 保健管理・指導	(1)健康教育の充実	個人差は見られるが基本的生活習慣が身につくよう、家庭と連携を取りながら、個にあった援助をする	・面談を定期的に実施することで、生活習慣（特に食事）について話をした。園と家庭の両方で同じタイミングで行い、同じ点を留意することで、改善が見られてきた。 ・感染症予防として、状況に合わせて個別保育や消毒の徹底などの対策を行ってきた。熱や咳がある時や家族に体調不良者がいるときでも登園させる家庭もあり、保護者との方針共有が必要である	B	B		
4 特別支援教育・保育	(1)支援体制づくりの推進	個々に発達にあった指導計画を作成し、園全体で共有していく	・サポートプランを作成し職員全体で発達状況、対応の方法などを確認した。（４歳児） ・園児が2名と少ないが、子ども一人ひとりの発達に見合った遊びが展開できるよう担任間で話し合いを密に取り、職員全体で確認しながら対応することが出来た。	A	A		・様々なアプローチをとり、保護者の持つ不安を保育者に伝えてもらえるような場面を作っていく。 （年３回の面談の中・日々の子どもの様子を伝える降園時等）
5 組織運営	(1)組織体制の充実	分掌担当者が中心となり、企画、提案、作業分担が行われ、見通しを持ち早めに準備が進められている	・子どもの体調・出席状況などにおいて企画を変更することがあったが、準備を済ませていたことでスムーズに行うことができた。しかし、片付けを後回しにしてしまうことがあり今後の課題である。 ・分掌担当者が中心となり準備を行い、職員会議で話し合い共通理解することができた。業務内容によって担当の負担に偏りがあったので、見直しを行い全体で分担していくようにしたい。	B	B		・地域の人とのやり取りを多く計画していく中で、子どもが説明したり、対応したりする場面を多く作り、言葉の成長を促していく。
6 研　修	(1)研修体制の充実	教育目標や重点目標に向けて、具体的な手立てを共通理解し、保育実践と研修を重ねている	・遊び改善構想をもとに研修を進め、子どもの今の遊びの姿を共有してきた。（月１回の園内研修）園内研修の中で、手だてについて研鑽し、環境の再構成を行ってきた。 ・園内研修の中で、実践記録をもとに子どもの姿、保育の手立てなどについて話し合い、保育の方針を確認できた。また、公開保育では、小中学校の先生、地域支援員の方など保育教諭とは違った視点から意見を聞くことができ参考となった。	A	A		
7 教育・保育環境整備	(1)教育・保育環境の充実	子どもが自ら選択し、じっくりと遊べる環境作りをしている	・保育者が経験させたいねらいや思いを持った上で、子どもが好きな遊びを選び、じっくりと時間をかけて作り上げてきた。しかし、子どもの様子と活動時間とのバランスを配慮すべきだった。 ・子どもの興味関心、保育者の願いを合わせてその都度環境設定を繰り返してきた。子どもの発達によっては様々な物が刺激となるため、環境設定に必要な物や準備のタイミングなど配慮が必要だった。	B	A		
8 家庭との連携・協力	(1)家庭教育への支援機能の充実	保護者と保育内容や子どもの育ちを共有できるよう、お便りやドキュメンテーションを使って発信し、子どもの育ちを伝え、子育てを支えている	・子どもたちの作品を直接見てもらう機会を計画し、その時々の子どもの様子や思いを伝えてきた。 ・日々のクラスボードや遊びごとのドキュメンテーションを作成し、園での子どもの様子をわかりやすく伝えた。また、降園時には保護者と話をする時間を作り、子どもの姿や言葉などを具体的に伝え、共有することができた。	A	A		・今年度は自分たちの遊びの成果を地域の人たちに見せることが多かった。来年度は、地域の人たちの様々な仕事や得意なことを一緒に体験させてもらうことで、遊びが深められる機会を作っていきたい。 （環境を通して行う教育及び保育・地域との連携を結び付けて）
9 近隣の学校との連携	(1)近隣の園との連携の推進	井川小中学校や近隣園と年間を通しての交流を持ち、こども園、小中学校、互いの指導方法を知る中で、ともに研修が行える機会を設けている	・こども園の職員が小中学校の授業を参観し、また小中学校の職員がこども園の公開保育を参観し事後研にも参加してもらえた。事後研修に参加したことで、それぞれの立場から思いや方向性についてじっくり話し合うことができた。 ・近隣園（清沢こども園）との交流が今年度は２回行うことが出来た。	A	A		
１０ 地域との連携	(1)信頼される園づくりの推進	豊かな体験が得られるように、地域の様々な人との関わりの機会を大切にしている	・地域を巻き込む保育目指して、季節のイベントや子ども達が製作した作品を見てもらった。また、地域のイベントにも出かけ、地域の方々と交流する機会を設けた。 ・月１回のアイセン訪問やISC活動で地域の方々と交流することが出来た。 ・こども園の子どもの様子を発信するため、季節のホームページを地域に紙ベースで配布した	A	A		